

訪問リポート

大手電機メーカー、I系企業の工場、研究施設などが集積し、「ハイテクライン」の異名も有する南武線沿線。その沿線の矢野口駅周辺に、設計・開発から製造・検査・現地据え付け、評価、メンテナンスまで一貫で受託生産するモノづくり企業がある。その名を(株)ワイ・デー・ケー(東京都稲城市押立1-7-05、☎042-377-3831)という。

最高顧問の坂本典之氏に案内されながら視察した技術本部ビル内には、まさに同社を象徴する光景が広がっていた。2階では電子回路、FPGAの設計開発を担う技術者、3階では高度な暗号

技術に挑むハイエンドな技術者から組み込みソフト設計全般を担う技術者、1階では設計開発し

「ワイ・デー・ケー」もこのルーツに基づくのだ。吉田電機は私の父親である坂本義道が経営し、通信機器の切削加工、伝送装置組立などを手がける受託工場としてスタートした。

ワイ・デー・ケー

一貫受託生産の技術者集団

て製造された装置を評価している部隊と、モノづくりおよび設計開発に関する機能が集結しているのだ。

当初少人数であった従業員は父の義道の代で150人規模へ、私の代では約500人規模になった。

こう語る坂本氏は、京都大学経済学部で学んだ後、丸善石油へ入社。その後3年に同社へ専務の任にて入社する。その15年後に同社代表取締役社長に就任し、2015年

6月まで経営トップの任にあった。「当社に入社してから

は、数千点にのぼるエレクトロニクス製品をはじめとして様々な要素が複雑に絡み合い、手作りで作り上げていく。大量生産とは異なる

では18年に宮城工場を新設し、19年には同工場内にロジスティクスセンターを完成させた」(坂本氏)。

今では、電子機器組立(EMS)、産業用設備設計・組立、精密切削加工、電子機器設計開発(OEM/ODM)、組

半導体製造装置で実績多数

「当社はNECの協力会社として1995年に創立。機械部品の切削加工を主業務として始動したが、ルーツは36年12月創業の吉田電機製作所まで遡る。現社名「ワイ・

中国・昆山に子会社の旺天凱精密機器(昆山)設立など、受託生産体制の強化に邁進してきた。昆山には04年に進出し、当初はかなり苦労したが、現在は精密切削加工、装置スタートアップでお客様に貢献している。直近

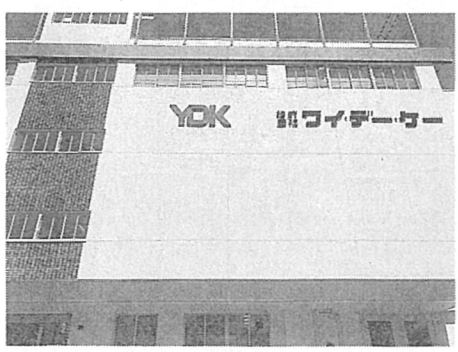
み込み用TCP/IPネットワークソフトウェアやFPGA用IPコアなどのオリジナル製品、IoTプラットフォーム製品など幅広い事業展開を図っている。

「当社が受託する半導体やFPDの製造装置

る匠の世界であり、モノづくり力が試される」(坂本氏)。

19年6月から同社の経営を引き継いだのは代表取締役社長の渡邊洋子氏だ。「現場の声を聞きた

「当社業績の7割は半導体・FPDの製造装置が当社の強みである」(渡邊社長)。(特別編集委員 泉谷歩 / 高澤里美記者)



本社外観

ど世界経済を取り巻く足元の不透明感もあり、敵しめに見通している。そのため、直近では製造装置の市況感を注視している」(渡邊社長)。

渡邊社長は同社の強みを「技術力」と見る。全社従業員数約500人の6分の1が技術者なのだ。

「新しい技術にチャレンジするために、情報通信分野を専門とする公的研究機関からの委託研究に採択され、自社研究開発の取り組みなども実施中である。モノづくりでは設計開発、製造、装置組立、評価、メンテナンスまで、一貫での切り口からでも受託できるのが当社の強みである」(渡邊社長)。